



事例 1

孫と2人暮らし高齢者の浴室の安全性確保

本人家族の希望・要望

(日常生活における不便・不自由な点)

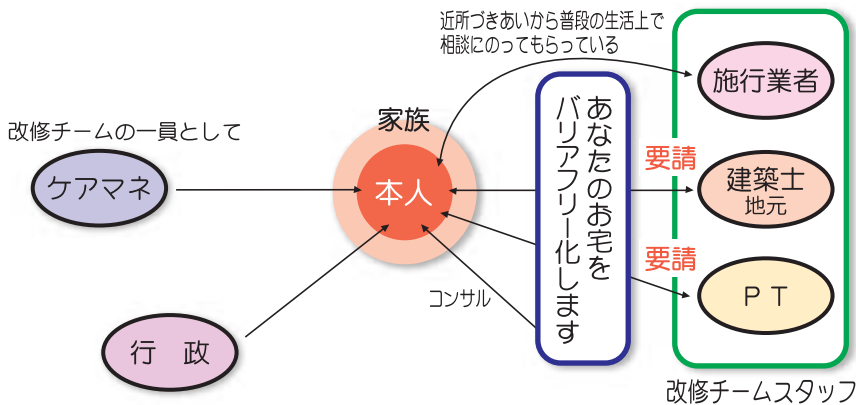
1. 同居していた娘が生前計画していた住宅改造の完成。トイレの改修は済んでおり、今回浴室、洗面・脱衣室を改修したい。
2. 高齢の身で家事一切をするため、安全に使用できる工夫をしたい。
3. 自立した生活を維持したい。
4. 通院、買い物時の移動をやすくしたい。



これまでの流れ

- 平成11年2月、同居中の娘が急逝（享年56才）してしまい、現在住んでいる住居の改造計画も、トイレの改造のみ済んだままでストップしている。
その娘が一番改造したかったはずの浴室で亡くなってしまったため、工事を進めることを延期してきた。
- 現在は大きな病気もせずに、介護保険の申請もしていない。
(申請しようとしたが、まだ大丈夫と医者に止められた。)

住宅改修チーム



家族をまじえて
改修チームスタッフ打合せ

性別／年齢 世帯構成 主介護者 住 宅 病 名 障害の程度 病 歴 介 護 度 身体及び介 護の状況	<p>女性 83歳 本人、孫の2人家族 なし 木造2階建 なし なし 平成11年2月 ・腰が曲がり始終痛む。 ・対象外 ・日常生活動作は殆どが自立。介護の必要はなし。 ・屋内での歩行は何かにつかまったりして安全な体勢で移動している。 ・屋外はシルバーカーが無ければ、長距離の歩行は不可。 ・耳が遠いと言うが、人と話をしてもコミュニケーションはとれている。 年相応の聴力。</p>	<p>自立の状況 (共通の項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●寝返り・起き上がり ・自立 ●衣服の着脱 ・自立 ●洗面・歯磨き ・自立 ●トイレ ・自立 ●入浴 ・自立 ●歩行 ・自立 ●移動 屋内 ・自立 屋外 ・シルバーカーによる移動 ●移乗 ・自立 ●調理・食事 ・自立 ●家事 ・自立
---	---	--

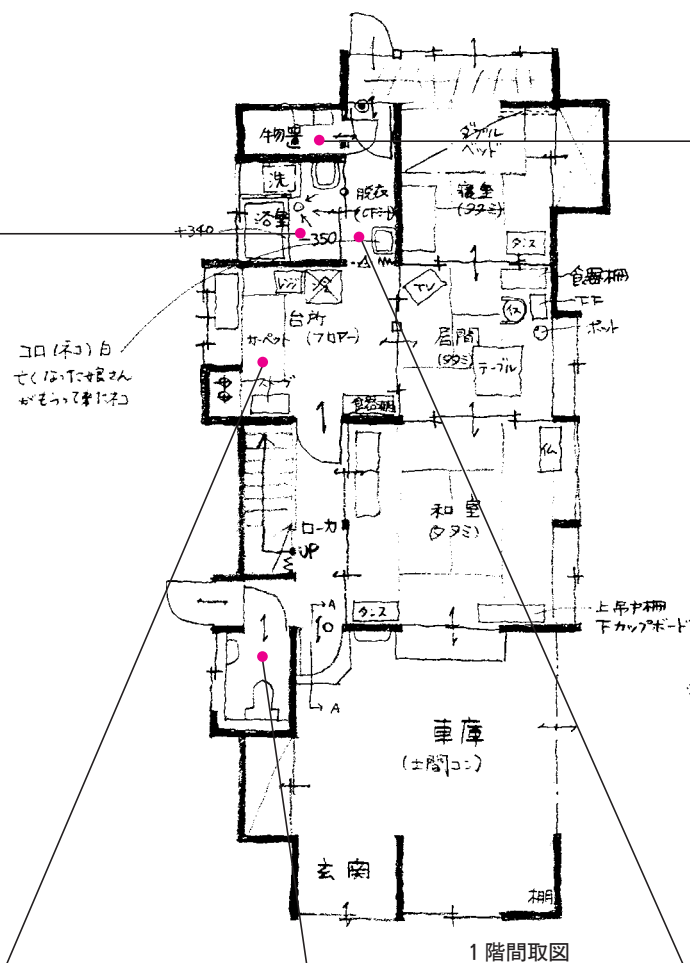
現地調査



浴室
脱衣スペースから床の段差がかなりある



浴室脇物置
以前はトイレであった



- * ○ ... +20 階
- ... +15 階
- △ ... +40 階
- ... +25 階
- ... +70 階
- ⊙ ... -170 階



台所
83才で主婦、家事すべてこなす
昨年から急に腰が曲がってきた



トイレ
亡くなった娘が生前改修した部分



脱衣スペース
右側出入口は浴室

既存家屋の概要

建築年	昭和41年
階・建	木造2階建
工事範囲面積	浴室、洗面・脱衣室 6.6㎡
所有形態	自己所有

住宅改修支援の流れ（スケジュール）

年月日	本人・家族の状況		住宅改修チームの支援内容と動き		
	状況	内容・要望	住宅改修支援チームの動き		内容
平成12年 8月8日	<ul style="list-style-type: none"> ○平成11年2月同居中の娘が入浴中に心臓発作のため急逝（享年56才）。 ○それ以来、家事一切を行う。 ○孫（男22才）と2人暮らし。全て自分がしなければならぬ。 ○今回工事を請け負う施工業者が、毎日声を掛けてくれたり、様々な相談にのってもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在住んでいる家は、築35年の中古住宅を購入し、娘が改修の計画をたて、トイレだけは工事が完了し、一番直したかった浴室で亡くなった。 ○改修工事への要望 <ul style="list-style-type: none"> ①洗面・脱衣室のスペースがなかったため浴室脇に確保したい。 ②浴室をバリアフリー仕様のユニットバスにしたい。 	事前現地訪問調査	行政（県） 行政（町） 施工業者 建築士 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・身体、ADL、介護状況等確認 ・本人・家族の要望確認 ・住宅、移動状況の確認
9月6日	<ul style="list-style-type: none"> ○同居中の孫（建設会社勤務）に協力してもらえよう伝えているが、忙しいため反応なし。 ○精神的な支えが必要だ。（施工業者は、普段は相談役のため、普段の生活を見ていて思うこと。） 	○スリッパを履き替えるためにあるような段差を解消したい。	改修チーム現地訪問調査 ○改修チーム初顔合わせ ○施工業者は相談役として本人をよく知っているため、時々改修スタッフなのか家族なのか分からなくなる。予算面に関しては厳しくそこから発展した考え方ができにくい状況。	ケアマネ 建築士 PT 施工業者 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・改修プランの打ち合わせ ・身体状況を確認したうえで計画中のプランをもとに、使いやすい位置やスペースを考えながら話し合う。 ・今後の進め方 ・介護保険におけるサービス利用との連携について
27日	<ul style="list-style-type: none"> ○改修プランについて、頻りに施工業者と話をしてきた。 ○相変わらず孫は参加できない。 	○今回の打ち合わせには本人は参加しない。本人の意見は、施工業者が代弁する。 要望 <ul style="list-style-type: none"> ①とにかく早く安くやって欲しい。 ②予算がないことを再三強調。 ③孫の意見も大事。（金銭的な援助は無理） 	改修プラン検討	ケアマネ 建築士 PT 施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話し合いをもとに改修プランについて検討。（図面なし） ①浴室のユニット化にとらわれない方法は考えられないか？ ②動線から考えると現在の浴室と洗面・脱衣室の位置関係はこのままで良いのか？ ③台所とローカの間の敷居はなるべくすく方向で考えてはどうか？ ④家事労働の軽減を考えると、掃除しやすい作りにも考えては？ 等々、出されたが、施工業者は当初計画と違うため、予算面でなかなかできないと話す。
10月3日			前回の話し合いの報告 ○前回の話し合いに参加しての感想。	建築士	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちは本人の改修をスムーズに進めるため協力すると言ったが断られた。
11日	<ul style="list-style-type: none"> ○前回までの改修チーム内の話については分かっている。 ○話の途中からプランの内容が変わったところで、はじめて自分の口から要望を話し始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○だんだん寒くなってきたのでできるだけ早く使えるようになればいいな。 ○今の浴室の造りは容易でないが、光が入り風が通るので、その窓は大事、できれば無くしたくない。 	今回事業の趣旨再度確認 ○今回の事業に対する認識のズレを解消するために、改修スタッフそれぞれと話し合いを持つ。 改修チーム最終確認 ○改修プランの再確認をすると共に、新たなプランを提案。（最終プラン）	行政（県） コンサル 施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・改修スタッフ間の話し合いの中で、不安材料は何か？ ・応募時点で改修案は、どのような経緯で作成されたのか？ ・本人の希望はどの部分で、何を希望していたのか？ 等について確認をした上で、偶然、亡くなった娘が計画していた改修案が見つかり、その改修案をもとに最終プランを作成することに決定。
11月8日		<ul style="list-style-type: none"> ○今までの浴室窓が残してもらえることは何より良かった。 ○図面の見方は分からないけどたいしたい！按配にってもらって良かった。 	改修チーム最終案作成	建築士	<ul style="list-style-type: none"> ・施工業者との話し合いについて報告。最終案についての説明をして、図面作成依頼。
13日	○着工		改修チーム最終確認	建築士 PT 施工業者 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・PTによる手すりの高さ、位置等のアドバイス。 ・洗面・脱衣室～ローカの出入口敷居の段差の解消方法。 ・蛇口、シャワー、排水等高さ及び位置の確認。
11月30日	○完成		○改修プランの内容の確認	施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・工事写真
12月11日	○今まで協力できなかった孫も、とても喜んだ。	○たいしたいい按配です。	完成確認 ○改修チームの立会いではできなかったが、この後時間をつくり、確認をしてもらう。	行政（県） コンサル 施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・完成状況確認の上、本人及び家族の感想聞き取り

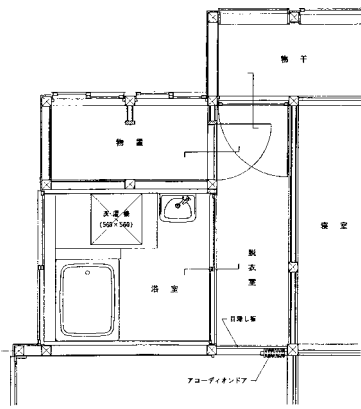
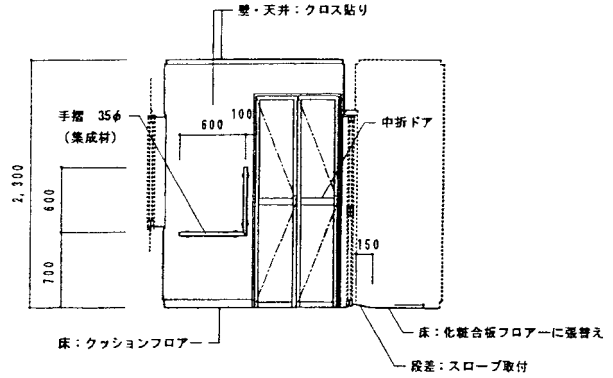
改修プラン



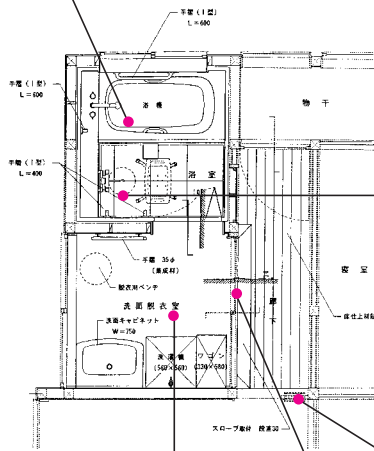
改修後
脱衣室手すり取付



改修後
浴室



最終案



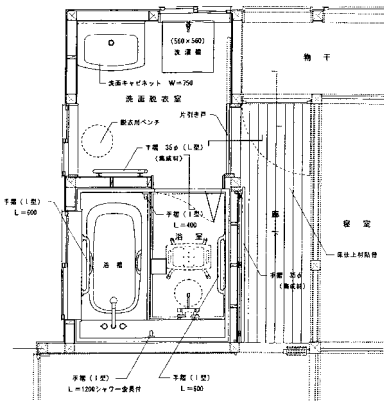
改修後
浴室出入口手すり



ローカ敷居
段差解消



改修
第1回検討案



改修後
洗面・脱衣室



改修後
洗面・脱衣室

住宅改修費	
総工事費	1,300,000円
自己資金	300,000円
公的資金	1,000,000円 (事業協力金)
介護保険	利用なし。
その他	

福祉用具導入
導入なし 将来シャワーチェアを購入予定。

改修案の整理（福祉用具含む）

区分	課題(ニーズ)	目標	改修等内容	改修効果	課題
洗面・脱衣室	・洗面・脱衣室がない。	・暖かく広いスペースを確保したい。 ・夏風と、明るさを取り入れられる窓は残したい。	・現在の浴室部分を洗面・脱衣室として使用する。 ・既存浴室の窓は既存のまま残し、洗面台を新設。これまで浴室の中にあった洗濯機を脱衣室に置く。	・これまで洗面台も浴室の中にあっただため、危険をなくし、安全を確保することができた。	・冬期間はヒーターを置き暖を取る工夫を。 ・洋服の着脱にベンチもしくはイスを置いて、腰をかけて着がえると安全。
浴室	・現状の浴室床が低すぎて勾配が急で危険。寒い。	・バリアフリー仕様のユニットバス化	1. 浴槽は和洋式浴槽タイプ 2. 立ち上がり、浴槽に入るときの手すり取り付け。 3. 排水溝が掃除しやすいこと	・今までは恐る恐る入っていたが、 <u>段差が無くなって安心して入れること</u> 。ふらついても手すりがあるので <u>安心</u> 。	
廊下	・これまで脱衣所として使用。敷居の段差を無くしたい。	・敷居の段差解消と、手すり取り付け	・敷居の <u>段差解消</u> のため既存敷居のレベルまで床を上げる。	・つま先が引っかかる <u>心配が無く安心</u> 。	

本人・家族の感想

- 改修前に口は出すけど協力体制が出来ていない孫も、改修してからはとても喜んでる。
- 今は毎日入浴、洗濯をしている。快適である。
- 手すりがとても按配良い。
- 脱衣室も暖かい。また、以前洗濯、入浴で何度も上がり降りしていた、30cmある段差を、今思えばよくいままでやってきたと思う。ほんとうに楽になった。
- カ手すりには洗濯物も干せて良かった。（できるだけ手すりとして使用してと伝えた）
- 浴室排水の溝のゴミは毎日取ります。（掃除も楽でとても良い）
- おかげで長湯になった。はっはっはっ！
- カとキッチンの間にあった敷居の段差は、大工さんと話して取りはずしフラットな状態になりとても良い。
- 住宅改修して良かった。満足度は最高です。

家族へのアドバイス

- ・今後の不安があると言えば、冬のお買い物で出かけることが心配ではある。これまでは時間がある時に孫に連れていってもらっていたが、今忙しい様子なので、一人で歩いて買い物に行くには心配。何かいい方法が無いものか？
- ・現在使用中の風呂用イスは小さくて低くて不安定。背もたれ付で座面の大きいシャワーチェアを使ってみてはどうか。

改修後のフォロー

- 本人はまだ介護の必要はないが、現実的に年齢を考えると、いつどうなるかは誰にも分からない。できれば予備群として、町内の福祉関係者や、地域の人たちの見守りネットワークをもって、今後の支援を続けてもらいたい。また、今回の施工業者が、近所ということで、これまで以上に相談役としての役割を引き受けていっしょやることは心強い限りである。

改修チームからのコメント

ケアマネージャーから 初めての住宅改修で、思いがけなく参加させてもらって勉強になりました。途中の話し合いの調整が、不慣れなせいでうまくまとまらなくなってしまったことは残念でした。

施工業者から 工事が完成してから、どちらかと言うと孫の喜びようが大きかった。本人も今年の試験で2級建築士試験に合格した。これがきっかけになって、本人のやる気に繋がればと思う。

建築士から 初めての住宅改修であったため、初めの話し合いから2回目の話し合いまでは、本当にどうなっていくのか不安だった。しかし、最終プランをまとめる頃には、それぞれが専門分野でのアドバイスができ、本人も、我々改修スタッフも納得の行く改修プランができたと思う。

PTから 普段の仕事では住宅改修は珍しくはないが、介護の必要のない高齢者の改修は初めてであることから、最初は話の結末がどこに行くのか不安であったが、最終プランをまとめるあたりは、本人にも使用しやすいプランに仕上がったことは、本当に良かったと思う。今後の仕事に役立てたい。